

2022年度 倫理 シラバス

「倫理」	単位数	2単位	学科	普通科	学年・学級	第2学年4, 5, 6組 第3学年1, 2, 3組	担当	印
------	-----	-----	----	-----	-------	------------------------------	----	---

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<p>1. 青年期における自己形成の課題について理解と思索を深め、人間としての在り方生き方について考えさせる。</p> <p>2. 先哲の思想を知識として学ぶのではなく、人間の存在や価値などについて思索し、人生観・世界観・価値観などを形成し、自己の人格形成に努める実践的態度を育成する。</p> <p>3. 生徒の個性を發揮・伸張させるとともに、平和で民主的な社会の実現に寄与する態度を育成する。</p> <p>4. 生徒の当面する課題などを中心に、先哲の考え方を学び、自己の課題を積極的に解決していくための課題解決能力を育てる。</p>
使用教科書・副教材等	高等学校 新訂版 倫理 第一学習社 テオリア 最新 倫理資料集 第一学習社

評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	主体的・協働	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・人間尊重の精神と自己形成への関心を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。 ・倫理的な諸課題についての探究的な態度を身につけ、人間としての在り方生き方への自覚を深めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に探究しようとしている。 ・良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己形成や人間としての在り方生き方に関して様々な資料を収集・整理することで、情報を主体的に選択している。 ・諸資料を自己形成のために主体的に活用し、追究した内容などを様々な方法で適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する基本的な事柄を自己の確立の課題として理解している。 ・さらに、自己の人格形成のために生かす知識を身に付けている。

2 学習指導計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	評価の観点				審査範囲	備考(学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習時間・特別活動等との関連等)
				関心・意欲・態度	思考・判断	主体的・協働	知識・理解		
第1学期	4 5	第1章 青年期の課題と自己形成 第1節 よく生きることを求めて 第2節 青年期の課題 第3節 自己の探究 ①青年期の心とからだ ②青年期の人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の定義をはじめとして、人生における青年期の位置づけ、特徴などについて考えさせ、青年期特有の課題であるモラトリアムとしての時期、アイデンティティの確立、自己実現の追求、自己理解の方法などについて学んでいく。 	○	○	○	○	第1学期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の心理的側面については、他教科の家庭科や保健などでも学習することが多いので、学習の進捗を考慮する→教科書の整理だけでなく、基本的な事項については解いてQ(小問題)の内容で整理させる。
第1学期	5 6	第2章 人間としての自覚 第1節 ギリシャの思想—哲学の誕生 ①哲学の形成 ②ソクラテス	<ul style="list-style-type: none"> ・パスカルの言葉を手掛かりに先人の思想を学ぶ意義について理解させる。 ・ギリシャ思想は、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの生涯 	○	○	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・「ソクラテスの弁明」などの資料を使用することで、学習の深化を図る→資料集の内容を参考にする。

2 学 期	11	第4節 自由で平等な社会の実現 ①社会契約の思想 ②人格の尊厳と自由 ③人倫と自由の実現 ④功利主義の思想 ○他者危害原則と自由	<ul style="list-style-type: none"> 近代市民社会の持つ矛盾や克服を課題としたヘーゲルの人倫思想、功利主義、社会主義思想などについて理解させる。 アメリカ合衆国における独自の思想についてとらえさせる。 民主社会の実現のために、あらゆる差別や偏見などの解決が求められること、またそれらとどのように関わっていくかを認識させる。 人間や社会の在り方の急激な変化による近代的な理性への問い直しとしての実存哲学、フランクフルト学派、構造主義など現代思想の人間観を理解させる。 アリストテレスの正義の考え方や社会契約説などを復習しながら、ロールズの正義論について理解させる。 	○	○	○	○	第2 学 期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> 「政治・経済」に関連した人物も登場することを理解させる。 抽象的な概念の羅列にならないようにするとともに、現代からの視点に配慮していく。 「現代社会」や「政治・経済」の学習内容とも重複することをおさえておく。 具体的事例に即して考えさせる。「倫理ワークノート」を整理させる。 生命倫理では、科学技術が進歩した現代における、生と死の問題についてのディベートなど、工夫した展開を試みる。 「倫理ワークノート」を活用する。
	12	第5節 人間性の回復と主体性の確立 ①社会主義の思想 ②実存主義の思想 ③プラグマティズムの思想 第6節 現代の思想と人間像 第7節 生命への畏敬と社会奉仕 ○差別や偏見との戦い							

【課題・提出物等】

・1学期に準ずる。

【第2学期の評価方法】

・1学期に準ずる。

3 学 期	1	第5章 現代の諸課題と倫理 第1節 生命倫理と課題 ①遺伝子操作と生殖革命 ②脳死と臓器移植 ③自己決定の医療と新しい死生観 第2節 環境倫理と課題 ①化学物質汚染と地球環境問題 ②自然との共生と環境保全・保護 ③開発と持続可能な循環型社会	<ul style="list-style-type: none"> 男女差別の解消などを考えさせ、フェミニズムやジェンダーの問題を考えさせる。 2学期の学習を踏まえ、地球環境問題などを生み出した現代社会の諸課題について考えさせるとともに、生命や自然との関わりについて考えさせる。 核家族、新しい家族形態、少子高齢化、高齢社会の中での「老い」などについて考えさせる。 情報社会とは何か、その中でのメディア・リテラシーとはどうあるべきかなどを理解させる。 グローバル化した社会での生き方を考えさせ、多面的なものの見方の必要性について理解させる。 *時間配当を検討した上で、テーマすべてを取り扱うのではなく、3～4つの内容を選択していくものとする。 	○	○	○	○	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に参加した人の体験談などをもとにした話し合いなど、工夫した展開を心がける。 携帯電話やインターネットの経験からどのような点が問題点であるかを発表させる。
	2	第3節 家族・地域社会と課題 ①高齢者と地域社会 ②変容する夫婦と男女共同参画社会 第4節 情報社会と課題 ①電子ネットワークの諸問題 ②情報の洪水と主体性の喪失							
	3	第5節 異文化の理解と課題 ①日本に暮らす外国人と多文化共生 ②国際感覚と日本人としての自覚 第6節 人類の福祉と課題 ①平和な世界に向けて ②地球市民として ○ともに生きる							

【課題・提出物等】

・1学期に準ずる。

【年間の学習状況の評価方法】

・各学期の評定をもとに、1年間の生徒の活動を評価に入れる。その際、各学期ごとに4つの評価基準があるが、この内容を踏まえた評価となるように配慮する。